

令和元年度 青年部全体研修会報告

令和2年1月25日(土)、出雲市の朱鷺会館に於いて、約50名の参加者のもと、島根県私立保育園連盟 青年部全体研修会を開催しました。今年度も講師には、原広治先生（島根大学 大学院教育学研究科 教職大学院 教授）をお迎えして『若手職員の育成に対して願う事思う事』と題し、保育現場において若手職員の育成を担う、ミドルリーダーの職員に向けた内容の研修をしていただきました。

4～6人のグループに分かれ、KJ法を用いて以下のような演習をしました。

- ① 若手職員の強みと弱みを書き出し、若手職員像を共有する
- ② ①に対しどのように関わるのかを考え、書き出す
- ③ ②を項目に分けて（ex. 着手容易⇔着手困難 効果大⇔効果小）表を作成する
- ④ グループ発表をする

この演習を通して、若手職員のこと、自分の関わり方、自分自身のこと、園全体のこと等を個々で振り返り、またミドルリーダーという立場同士がディスカッションしていく中で、思いや課題を共有し、今何ができるのか、何をすべきなのかということと一緒に考える機会となりました。

今年度も、リラックスした中での研修を…との原先生の思いを受けて、お茶やケーキ等を用意していましたが、ディスカッションが盛り上がり「この作業が終わってから食べます！」というグループもあり、先生方の熱意が伝わってきました。

原先生は、若手職員の育成をすることで、その職員が満足感ややる気を持つことができたり、保育の質が向上したりすると述べられた後で“育成の向こうにあるもの”について次のようにお話してくださいました。

“<皆が><自分らしく><主体的に><協働して><振り返りながら>
保育に臨む“

職員一人一人がお互いに、強み(今あるもの)を生かして、弱みをサポートし合いながら園全体でそのようなチーム作りをしていきたいと私自身感じました。

参加者には、ミドルリーダーとしての自覚と責任を改めて感じ、園に戻りすぐに実践してみようと思っていただけたのではないかと思います。とても有意義な研修会となりました。

○講義の様子



○K J法での取り組み



○グループ発表

